【特集：衣類とごみ—おしゃれと環境—】

衣類などのリユースショップを資源に太陽光発電所作り

新 藤 絹 代*

1. 転機となったチェルノブイリ事故

子どもにアレルギーがあったこともあり、添加物の少ない食べ物・低農薬の野菜を食べたいと思い生協に加入し、食べ物にこだわり組合員活動にも参加してきた。

1986年に思わぬ事件が起った。私たちの生活クラブ生協のお茶は三重県の度会（わたらい）で作っているが、その年採れたお茶から通常を上回る1kgあたり227ベクレルの放射能が検出されたのである。これは国の基準の370ベクレルよりは低く一般市場では安全といわれるものであるが、私たちの生協では国の基準より厳しい自主基準37ベクレルを決めていたことから、このお茶は出荷停止になってしまった。その年の4月26日に起ったチェルノブイリ原子力発電所の事故により、はるか8,000kmはなれた日本にまで汚染が広がっていたのである。お茶は5月に刈り取られるので、ちょうど刈り取り前に降った雨に放射能が含まれていたと考えられる。お茶の生産者は、これまで農林大臣賞を何度か受けた茶づくりの名人といわれる方である。土づくりから水にまで気を配ってお茶を作ってこられた。私たち組合員も洗って使うことのできないお茶の安全性にはこだわりがあったのである。

ひとたび地球上のどこかの原子力発電所で事故が起れば、自分だけで安心・安全な食べ物は作れないのだということに気がついた。当時は、干草ではなく牧草を食べた牛の牛乳、ハウス栽培より露地栽培の野菜に、より多くの放射能が検出され、まさに青天の霹靂という気がした。原子力発電所をなくさない限り安全な食べ物はないと気がついた。日本から見て地球の反対側ともいえるところで起った事故でこのような影響を受けるのだから、発電所近くの放射能汚染と惨状はどのようなものだった

のであろうか。考えるだけで恐ろしくなる。

2. 環境団体エコメッセの設立

けれども、原子力発電所に「反対」「反対」といっていても、私たちが今の快適な生活を変えない限り、多くのエネルギーを使い電気や石油・原子力に依存した生活が続いていくであろう。そこで、石油や原子力に代わるエネルギーとして、少しでも太陽光や風力などの自然エネルギーに変えていけば、いずれ限りある原子力や化石燃料に依存する生活を変えられるのではないかと思い、地域の身近なところでの自然エネルギーの普及と、省エネルギーを広げる活動を始めた。ドイツが脱原発から再生可能エネルギーへの変換を法律で決めた動きや市民の電力会社を作る運動を知り、勇気を与えられた。

活動には、「人」と「お金」が必要である。「人」はこれまで生協活動をともにしてきた仲間と呼びかけた。資金源としてリユースショップを開くことで、資金を得るだけではなく、衣類や雑貨のリユースを通じてものを大切にすることも提案でき、多くの人と情報の交換も、店という場でできるのではないかと考えた。これは以前滞在したイギリスのNGO OXFAMの活動にヒントを得たものである。

店の屋号は『原子力発電所』に対して『元気力発電所』とした。

3. リユースショップ『元気力発電所』から見た衣類リサイクル事情

店を始めてすぐに気付いたことは、いかに各家庭に着なくなった衣類が多いかということである。どうみても何10年経ったと思われるものもある。皆さん、ごみとしては捨てられないので保管している。けれども何年も着ていない。人にさし上げるのも好みがあるし、失礼かも。そんな時、われわれの店に持って行くと何やら役に立てていただけるという『良いことした感』があるので

原稿受付 2010.4.2

* 特定非営利活動法人エコメッセ

連絡先：〒177-0052 練馬区関町東1-24-5 「元気力発電所」関町店

E-mail: shindo-f@olive.plala.or.jp

はと思っている。

われわれの店はすべて寄付によるものである。よく町にあるリサイクルショップと違い、買い取りでもなければ委託でもないで、当初はものが集まるか心配したが、思った以上に地域の環境活動に使いたいという趣旨を理解していただけたようで、寄付でもいろんなものがたくさんいただけた（表1）。買い取りや委託だと、昔の『質屋』のイメージだけれど、われわれの店は自分がささやかながら社会の役に立っているという気持ちも味わっていただけるのである。買ってくださいる人も、買い物をしたいという人間としての欲望を低価格で満足でき、普段着ないような色やデザインのものを試してみるなど冒険もできる。しかも売上が地域の環境活動『市民発電所建

設』という目にみえた形になる。

だから、ここで買うのよというお客も、全員ではないにしてもいらっしゃる（表2）。

一方困ったことも出てきた。すべてものが、季節に合わせて順調に全部売れるわけではないので、残ったものをどうするかということである。リユースショップは仕入れがないので、良いもの、気に入ったものを手に入れたお客さんは毎日のように店を訪れる。そのような人々のためにも同じものを長期間展示しておくわけにはいかないことにも気付いた。そのため練馬に相次いで3店舗作り、こまめにそれぞれの店のものを循環させることもした。けれど季節により必要とされる衣類は違い、店に長期間展示されることにより季節外れになっていく。

表1 年間品物提供者数

2008 年度店舗別品物提供数

単位：件

	関町店	練馬店	石神井	江戸川	千船①	千船②	学大店	池尻店	昭島店	田無店	多摩店	八王子	調布店	合計
4 月	153	91	121	89	247		93	91	76	56	40	73	127	1,257
5 月	177	117	150	71	197		93	84	87	64	44	75	120	1,279
6 月	153	120	134	96	263		105	71	65	57	36	94	127	1,321
7 月	147	88	129	86	211		73	59	90	51	25	86	119	1,164
8 月	101	64	69	45	177		57	70	58	40	30	60	78	849
9 月	173	90	115	52	266		93	72	73	42	39	87	122	1,224
10 月	213	134	149	104	227	144	126	87	115	58	44	139	172	1,712
11 月	200	135	155	91	218	128	82	73	94	56	49	99	139	1,519
12 月	173	106	137	90	151	118	85	97	91	72	45	90	107	1,362
1 月	153	101	95	76	123	75	60	85	59	49	43	54	101	1,074
2 月	119	66	117	54	150	83	56	66	59	39	32	58	103	1,002
3 月	126	118	125	77	191	76	56	86	82	46	44	71	99	1,197
合計	1,888	1,230	1,496	931	2,421	624	979	941	949	630	471	986	1,414	14,960

*千歳船橋店は10月から2チーム体制をとる（①は月火水土、②は木金日を担当）

表2 年間延来店者数

2008 年度店舗別来店者数

単位：人

	関町店	練馬店	石神井	江戸川	千船①	千船②	学大店	池尻店	昭島店	田無店	多摩店	八王子	調布店	合計
4 月	715	975	790	636	1,676		792	629	718	624	575	1,057	591	9,782
5 月	680	879	820	605	1,284		803	544	808	575	490	823	668	8,979
6 月	763	971	915	554	1,897		834	532	843	707	513	860	888	10,077
7 月	701	875	805	494	1,764		815	565	862	617	466	852	743	9,559
8 月	517	632	665	345	1,343		640	414	540	387	412	613	520	7,082
9 月	692	781	734	403	1,875		797	461	764	511	449	770	610	8,847
10 月	884	992	1,011	760	1,354	1,054	955	575	921	689	553	1,260	796	11,804
11 月	711	881	991	616	1,085	807	865	562	705	666	412	908	702	9,911
12 月	640	962	859	500	1,060	713	778	539	755	626	450	822	565	9,269
1 月	576	777	759	487	1,174	736	657	487	655	529	424	622	547	8,430
2 月	592	762	791	442	1,077	749	745	575	622	501	403	570	582	8,411
3 月	767	933	921	530	1,309	690	741	572	676	566	484	750	690	9,629
合計	8,238	10,420	10,061	6,372	16,898	4,749	9,422	6,455	8,869	6,998	5,631	9,907	7,902	111,780

*千歳船橋店は10月から2チーム体制をとる（①は月火水土、②は木金日を担当）

表3 エコメッセ練馬3店の年間売り上げ数
2008年度各店月別売上表 単位：円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
関町	399,645	409,405	417,280	385,050	374,070	394,730		
練馬	475,350	406,940	457,430	401,050	280,629	344,540		
石神井	429,585	428,685	560,645	466,670	356,850	402,970		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
関町	492,290	420,680	481,300	339,280	331,233	438,470	2,380,180	396,697
練馬	468,730	460,590	464,100	361,470	334,940	434,185	2,365,939	394,323
石神井	606,270	611,535	509,315	444,995	380,425	488,195	2,645,405	440,901

一旦家庭からもらった衣類はすでに事業のための品物で、処分するときは産業廃棄物となる。そこで独自のルートを開発しわれわれのNPOを超えた衣類の循環システムを作る必要に迫られた。回収業者を選ぶときにも、まずは回収されたものがその後どうなるのかが気になる。

最初にあたった産廃業者は集めたものは燃やすとの答えで、これには同意できなかった。次に生協が委託していた古布回収の業者に連絡をとり、集めた古布がウエスやパッキング材料として、再びリサイクルされている業者にお願いし回収してもらうことになった。次の年にも、また展示できそうな衣類は保管している。エコメッセは現在（2010年3月末）東京都内に13店舗あり、全店舗で使う大きな倉庫を持って、そこに季節外のものを保管し、他店に回す中継地になっている。

現在は古布回収のルートとして不登校の子ども達を支えるNPOへのルートも、地域の連携としてできた。またエコメッセ内で、使えるものに再生するリメイクチームを作り、マフラー、エプロンなどを製作、販売している。なるべく使い切りたいとの思いからであるが、事業としてどこまで採算が合うのかこれからの課題でもある。参考までに表3にエコメッセ練馬3店の年間売り上げ数

図1 現在の関町店

図2 市民発電所1号機『武蔵』武蔵大学5号館 パネル前で記念撮影

5号館屋上で太陽光発電パネルによる

市民発電所1号機『武蔵』

発電中

表示パネル
50.4 mm角
120/500×210=50.4

この発電所はリユースショップ「元氣力発電所」の売上金の一部と市民からの寄付金、NEDO 技術開発機構の助成、そして武蔵大学の協力により設置することができました。

2004年2月 特定非営利活動法人 エコメッセ

図3 市民発電所1号機『武蔵』の計測機と表示板

図4 市民発電所2号機『双葉』大泉双葉幼稚園

図5 市民発電所3号機『三育』東京三育小学校

を示しておく。

4. 最 後 に

大量生産、大量消費が豊かさだと考えられた時代を経て、持続可能が叫ばれ、今また良いものを大事にということを考える人たちが増えているのではないかと思う。衣類の素材一つとっても、人に優しく、リユース、リサイクル、リメイクしやすいのは天然繊維である。われわれの店で売れやすいのも、そういった素材のものである(図1参照)。最後の最後まで地域全体で端切れなどとして使って、衣類、繊維類もごみとして出されるのをゼロにしていきたいものである。

リユースショップ『元気力発電所』の売上で作った市民発電所は3号機までできた(図2~5)。お店で「皆さんの寄付とお買い上げでできた皆さんの発電所です」と来店者の皆さんに報告をしている。

ソーラークッカーによる環境学習授業(図6)や緑の

図6 小学校の環境授業

カーテン作りによる省エネルギーの提案など、身近な地域で目に見える活動を目指してゆくつもりである。

合い言葉は「エネルギーも食べものも地産地消」。